

平成25年5月16日(木)
国土交通省関東地方整備局
千葉港湾事務所

記者発表資料

平成25年度 千葉港湾事務所の事業概要について

千葉港湾事務所の平成25年度における事業概要は、以下のとおりです。

千葉港湾事務所では、首都圏における産業の国際競争力強化・防災対策として、千葉港葛南中央岸壁(水深12m:耐震強化構造)および泊地の整備を実施していきます。

また、海上交通が輻輳している東京湾の船舶の航行安全・湾内の環境改善のため、清掃兼油回収船「べいくりん」による浮遊ゴミや油の除去を行うとともに、モニタリングポストによる水質の連続観測等(東京湾海洋環境整備事業)に引き続き取り組んでいきます。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、横浜海事記者クラブ
千葉県記者クラブ、千葉市記者クラブ

問い合わせ先

所属	関東地方整備局	千葉港湾事務所
氏名	副 所 長	<small>ふるかわ</small> 古川 <small>まさみ</small> 正美
	工務課長	<small>おかじま</small> 岡島 <small>たつお</small> 達男
電話	043-243-9172	
FAX	043-243-1939	

千葉港葛南中央地区国際物流ターミナル整備事業

H25年度事業費： 2.5億円

【千葉県 船橋市】

事業の概要

千葉港葛南中央地区は、背後の工業団地や関東一円を背後圏とする鉄鋼輸入基地をはじめ、立地する石油・化学工業及び食品製造業等の貿易拠点となっています。

現在、葛南中央地区には水深10m岸壁（15,000DWT級対応）までしか整備されていないため、主要産業である鉄鋼類の貨物を多く扱う地区での国際競争力強化の観点から、船舶の大型化への対応を図るため、水深12m岸壁（30,000DWT級対応）への改良を行っているところです。

また、大規模な地震が発生した際に、被災直後の緊急支援物資及び避難者の海上輸送手段を確保するため、耐震強化構造への改良も併せて行っています。

平成23年度に水深12m岸壁の本体上部工整備が完了したことにより、平成24年度に岸壁の暫定供用（水深10m）を行い、平成25年度本供用に向け、引き続き泊地（水深12m）の整備を行います。

平成25年度予定

泊地（水深12m）の浚渫工（完了）を実施します。

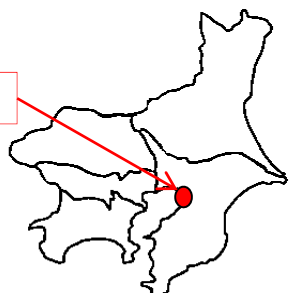
事業の効果

国際物流ターミナルを整備することにより、3万トン級の大型船舶が喫水調整しなくとも出入港が可能となり、港湾貨物輸送の効率化とコスト低減が図られ地域産業基盤の強化が図られます。

また、岸壁を耐震強化することで、大規模地震時において、海上からの緊急支援物資輸送が可能となり被災地域の復旧・復興に貢献できます。

【位置図】

千葉港



東京湾 海洋環境整備事業

H25年度事業費： 1.58億円
【東京湾全域】

事業の概要

東京湾では、港湾管理者（千葉県、横浜市、川崎市、東京都）が、それぞれ港湾区域内の海域の清掃活動を担当しており、港湾区域以外の広大な一般海域は国の業務として千葉港湾事務所の清掃兼油回収船「べいくりん」で実施しています。同時に、油流出事故等が起こった際の浮遊油回収も行います。そのほか、海洋環境把握のため水質データ等の取得も行っています。

また、東京湾内に設置した4箇所のモニタリングポストにより、気象（風向・風速・気温）について15分おき、水質（水温・塩分・濁度・クロロフィルa・溶存酸素）、流況（流向・流速）について、1時間おきの連続観測を実施し、データを公開しています。

平成25年度予定

- 清掃兼油回収船「べいくりん」による浮遊ゴミ・油の回収、水質調査を引き続き実施します。
- 東京湾内に設置したモニタリングポストによる気象・水質・流況状況の連続観測など各種の環境調査を実施します。

事業の効果

高度経済成長により悪化した東京湾の環境は陸域での排出源対策と合わせて、海洋環境整備事業（浮遊ゴミや油の回収）の取り組みもあり、次第に好転し、再び豊かな海へと戻り始めています。

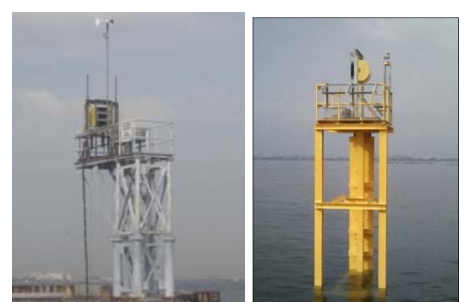
連続観測などの各種環境調査を行うことで湾全体の環境メカニズムを把握すること以外にも、浅場造成や海底覆砂の有効性などの効果を確認していくとともに、生物の生息環境にも大きな影響を及ぼす赤潮、青潮等発生や発生後の広がり状況を解明し、今後の環境改善対策に活かします。



清掃兼油回収船「べいくりん」による流木の回収作業



湾内6箇所にて水質調査を実施



設置されたモニタリングポスト (川崎人工島) (浦安沖)